

閻連科って

誰ですか？



谷川 毅

1959年広島県生まれ。大阪外国語大（現大阪大）中国語学科卒、同大大学院修了。名古屋経済大教授。中国現代文学の翻訳・紹介に関わる。閻連科作品の翻訳に『人民に奉仕する』（文芸春秋）、『丁庄の夢』（河出書房新社）、『愉楽』（河出書房新社）があり、11月に最新訳の『年月日』（白水社）を発刊した。

閻連科、男性、五十八歳。いま世界的に注目されている中国の作家です。一九五八年河南省の片田舎の貧しい農民の子として生まれました。河南省は中原と呼ばれる黄河文明発祥の地にあります。

彼が生まれたのはちょうど大躍進政策がはじまった年で、この政策の失敗にさらに自然災害が重なり、中国国内では何千万もの餓死者が出たといわれています。このため閻連科の体には幼少期の「飢え」の経験が深く刻み込まれています。ノーベル文学賞を取った莫言も、五五年に河南省の東隣、山東省の貧しい農民の子として生まれ、同じように飢えに苦しんだ経験を持っています。

中国で旺盛な創作活動

品は、お母さんがかまごの火をおこすために、全部燃やしてしまおうという憂き目に遭いました。

七七年、混乱を極めた文化大革命が終わり大学入試が復

活し、閻連科も挑戦しますが失敗。中国の農村青年が貧困から抜け出すための方法、それが人民解放軍への入隊です。莫言はその道を歩んでいますが、閻連科も同じ道を選びます。軍隊で文章の才能を認められた閻連科は、文芸創

たれ、息を吹き返しました。禁止されていた国内外の作品も読めるようになり、それらを貪欲に吸収した作家たちはさまざま手法・表現に挑戦し、八〇年代は中国の文学界が最も熱く燃えあがった時期

となりました。莫言もこの時期から作品を発表し始めています。日本ではなかなか考えにくいのですが、中国では文学は常に政治と深く結びついています。

小学生のとき、美人の先生に褒められ、また都会からやって来た同級生の女の子に負けたくなって、一生懸命勉強するようになりました。しかし六六年に文化大革命が始まると、小学校の生活は『毛沢東語録』の暗記や、大人たちのデモ行進の見物、学校の宣伝隊の活動への参加などに一変してしまいました。

彼が文学に目覚めたのは中学に入ってからです。文化大革命の時代に読むことができたのは、限られたほんの一部の革命礼賛小説のみでした

ます。政策が右に左に大きく揺れるたび、作家の創作活動はそれに振り回され大きな影響を受けます。そんな中、閻連科はいくつかの作品で発禁処分を受け、『愉楽』という作品が原因で軍隊から追い出されています。現在は北京にある中国人民大学文學院に所属し、後進の指導をしながら創作活動を続けています。